High School Teachers' Dress: How it influences people's perception of them

TAMURA Kazuko*, HIRABAYASHI Fumino

Faculty of Education, Kochi University, 2-5-1 Akebono-cho, Kochi 780-8520, Japan

Received 13 May 2013; accepted for publication 3 July 2013

Abstract

This paper examines female university students' opinions on high school teachers' dress, and how it influences people's perception of them.

The results were as follows: 1) Male teachers were perceived as enthusiastic and interesting, while female teachers were perceived as diligent, easy to talk to, and friendly, depending on their respective clothing choices.

2) The respondents found business suits to be preferable, while a white coat and jersey track suit was found to be neutral. Factory-style work clothes were found to be the least preferable, particularly for female teachers.

3) We find that those who had a favorable perception of male teachers wearing jersey track suits thought that the same male teachers were gentle and easy to talk to, although they also believed their classes may not necessarily be easy to understand.

4) Those who had a favorable perception of female teachers wearing business suits thought that they might not be easy to talk to. However, they also perceived them as diligent and gentle.

Key Words: Perception, Personal characteristics, University students' opinions, Dress, Multiple regression analysis

高校教師の認知に対する服装の影響

田村和子*, 平林文乃

高知大学教育学部

1. 緒言

近年、学校現場では、茶髪の教師やピアスをつけた教師が見受けられる。ファッションが学校現場に入り、若い教師の服装は私服化傾向にあり、教師のだらしない格好が生徒の成績を低下させているといった批判や、公務員として働くのだから、服装に気を配るべきだといった批判も聞かれる。

被服の象徴の価値は、時代につれて変化し、それにつれて象徴の意味も変わってくる [1]。男性のオフィスファッションにある変化がみられ、クールビズ等を採用する企業が増えたことから、スーツ姿からビジネスカジュアルファッションに切り替える男性が多く見られるようになった。

ヤコブソンは学生に初対面の人を見せて、その人の印象を書かせたところ、学生はその人の外観のみならず、性格、知性などのパーソナリティまでの記述が見られたことから、他者を評価する時には、外観（被服を含めた）が大きく影響することを指摘している。また、ドーティは、人がパーソナリティの印象を形成していく時に、被服がどのような影響を与えるかを実験している。実験では、4人の女性が最初自分のコスチュームを着て登場し、2回目は全員地味な青色のスモックを着て現れた。その結果、4人の女性のパーソナリティはスモックを着ている時よりも、自分のコスチュームの方が全く違って認知された。さらに、コスチュームの評価と人の評価の間には強い相関関係が見いだされた [1]。このことは、教師の服装についても同様に考えられる。著者は小学

* 連絡先：高知大学教育学部 780-8520 高知市曙町 2-5-1
E-mail: kotamu@kochi-u.ac.jp, Tel: +81-88-844-8397

校の女性教師の服装に対する児童の認知について研究し、日常着と体操着間の認知の差が顕著であり、男子よりも女子の方が服装に対する「好き」、「先生らしい」の得点が高く、女子において学年間で差が認められ、服装が評価の手がかりの一つとして用いられることを明らかにしている [2].

ビジネス社会においては、職業人としての服装の重要性が強調されており、外観を手掛かりとした対人認知に関する研究でも職場での研究が数多くみられる [3, 4]. しかし、教師の服装について具体的に論じられたものは極めて少なく、教師の服装に対する認知について研究されたものも極めて少ない。若い教師は自分が望んでいる通りの印象を生徒、父兄に与えられるように、被服が表現している意味をよく理解しておく必要があるが、教師の服装マニュアルはない。

ファッションに敏感な若者が、高校教師の服装をどう見ていたのか、高校教師にふさわしい服装をどう考えていたのかを教師のパーソナリティと関連づけて明らかにすることは、教師の服を設計するにあたり重要であると考えられる。

そこで本研究では、大学生を対象に、高校教師の服装と教師に対する認知について調査し、服装の評価と教師のパーソナリティの評価の関係について検討した。

2. 調査方法

2.1 調査対象および調査時期

調査は高知大学の1年生15名、2年生10名、3年生10名、4年生11名の計46名の女子学生を対象とした。高知大学は他の国立大学に比べ、在学生の県内出身者の割合が少なく、在学生の8割近くが県外者である。県外者は北海道から九州・沖縄まで広く分布している。また、出身高校も普通高校、農業高校、工業高校等である。

調査は平成22年7月～8月にかけて、教室で質問紙を配布し、調査内容を説明した後、その場で回答させ回収した。

2.2 調査内容

(1) 高校教師に対するパーソナリティ評価の測定尺度

本調査のための意見項目を設定する目的で、授業の1クラスの女子大学生20名を対象に、男性と女性教師別に、「教師の服装」について自由記述で調査し、事例を収集した。その結果、教師の服装としては、「スーツ」「白衣」「ジャージ」「作業着」「スカート」「パンツ」等が挙げられ、被服と性格やパーソナリティが結びついた記述が数多く見られた。

また、別の授業の1クラスの女子大学生18名を対象に、出身県と教師の服装と教科を調査した。出身県は四国10名（高知4名、愛媛2名、徳島1名、香川1名）、中国4名（岡山2名、島根1名、鳥取1名）、九州3名（宮崎2名、大分1名）、近畿1名（京都1名）で、白衣を着ていたのは家庭科（食物・被服）、理科（化学・生物・物理）、英語、地理、美術の先生であり、作業着を着ていたのは農業、工芸、自動車工学、就職支援の先生であった。そして、ジャージを着て

いたのは体育、国語、社会、理科（生物）、情報、部活を担当している先生であった。白衣は理科の先生、ジャージは体育の先生と決めつけがちであるが、10県18の高等学校を調査した結果では、いろいろな教科の先生に着られていることがわかった。

これらの結果をもとに、教師に対するパーソナリティ評価の測定尺度を考えた。評価の形容詞については、「Qes1. やさしい—きびしい」、「Qes2. 真面目な—不真面目な」、「Qes3. 熱意がある—熱意がない」、「Qes4. おもしろい—おもしろくない」、「Qes5. 授業がわかりやすい—授業がわかりにくい」、「Qes6. 話しやすい—話しにくい」、「Qes7. 相談しやすい—相談しにくい」、「Qes8. 親しみやすい—親しみにくい」、「Qes9. 好き—嫌い」の9項目を取り上げ、「教師に対するパーソナリティ評価測定尺度」とした。

尺度は「どちらでもない」を中心にして、「非常に」「やや」とした5段階尺度とした。なお、各形容詞対の測定尺度の左より、5～1点を与え、得点化した。

(2) 服装の評価

高校教師の服装として好ましい服装がどうかについて、男性教師と女性教師別に質問した。服の種類については、予備調査の結果をもとに、女性教師は「スカート姿」、「パンツ姿」、「作業服姿」、「白衣姿」、「ジャージ姿」、「スーツ姿」の6種類を選んだ。男性教師は「作業服姿」、「白衣姿」、「ジャージ姿」、「スーツ姿」の4種類を選んだ。

各項目については、3段階評定とし、「好ましい」を3点、「どちらでもない」を2点、「好ましくない」を1点として得点化した。

2.3 データの処理

まず、高校教師に対するパーソナリティ評価、服装の評価について、男性教師と女性教師の差に平均値を算出した。次に、男性教師と女性教師の差を明らかにするために、平均値の差の検定（t検定）を行った。

さらに、服装の評価と教師に対するパーソナリティ評価の関係を明らかにするために、得点間の相関係数（ピアソンの積率相関係数）を求め、重回帰分析を行った。

3. 調査結果及び考察

(1) 高校教師に対するパーソナリティ評価

高校教師に対するパーソナリティ評価のプロフィールをFig. 1に示す。図はパーソナリティ評価点の平均値をプロットしたものである。

Fig. 1が示すように、男性教師では、「Qes3. 熱意がある」、「Qes4. おもしろい」、「Qes5. 授業がわかりやすい」の平均得点が高いことがわかる。一方、女性教師では、「Qes2. 真面目な」、「Qes3. 熱意がある」、「Qes6. 話しやすい」、「Qes7. 相談しやすい」、「Qes8. 親しみやすい」、「Qes9. 好き」の平均得点が高いことがわかる。

Fig. 1 Comparison of average scores of Perception towards teacher dress for male and female.

男性と女性教師間で平均得点に差があるかどうかを検定したところ、「Qes3. 熱意がある」「Qes4. おもしろい」「Qes7. 相談しやすい」が0.1%水準で有意であり、「Qes8. 親しみやすい」が1%水準で、「Qes5. 授業がわかりやすい」「Qes6. 話しやすい」が5%水準で有意であった。また、「Qes2. 真面目な」「Qes9. 好き」が10%水準で有意であった。「Qes3. 熱意がある」「Qes4. おもしろい」「Qes5. 授業がわかりやすい」は男性教師の方が高く、それら以外は女性教師の方が高かった。

以上の結果から、女子大学生は、高校の時の男性教師を熱意があり、おもしろく、授業がわかりやすいと評価し、女性教師は真面目で、話しやすく、相談しやすく、親しみやすく、好きと評価していることがわかった。異性である男性教師には「教師力」を求め、同性である女性教師には「人間力」を求めていると推察された。

(2) 服装の評価

高校教師として好ましいと回答した服装は、Fig. 2が示すように、男性教師ではスーツ姿の得点が高く、約9割の者が好ましいと回答した。次いで、白衣姿とジャージ姿で、作業着姿が最も得点が低かった。

一方、女性教師では、スカート姿とパンツ姿とスーツ姿の得点が高く、好ましいと回答した者が8割以上いた。次いで、白衣姿とジャージ姿で、作業着姿の得点が最も低かった。作業着は筋肉労働者のイメージが強いのではないかと推察された。男性と女性教師間で差があるかどうか検定したところ、作業着姿のみ10%で有意であり、男性教師の方が高かった。

以上の結果から、女子大学生が好ましいと評価した服装は、男性・女性教師ともにスーツ姿であった。一番好ましくないと評価されたのは作業服姿で、作業服姿は男性よりも女性教師にふさわしくない服装であると評価されていた。そして、白衣とジャージはどちらでもないとして評価されていることがわかった。

Fig. 2 Comparison of average scores: Do you think that the clothes are good?

内藤ら[4]は、「ビジネススーツ着装イメージの基本因子は調和と社会的望ましさと目立ちの2因子によって構築されている」ことを報告しているが、教師としての社会的望ましさ、目立たない服装（ダークスーツ）が受け入れられているものと推察された。

(3) 服装の評価と教師パーソナリティ評価の関係

服装の評価と教師の評価の関係を明らかにするために、得点間の相関係数（ピアソンの積率相関係数）を求めた結果をTable 1に示す。

女子大学生の結果は、Table 1が示すように、男性教師では、「ジャージ」と相関が認められたのは、「Qes1. やさしさ」($r = 0.345$)、「Qes6. 話しやすさ」($r = 0.336$)、「Qes9. 好き」($r = 0.313$)で、5%水準で相関が認められた。「白衣」は、「Qes7. 相談しやすい」($r = -0.320$)で、5%水準で負の相関が認められた。「作業着」と相関が認められたのは、「Qes8. 親しみやすい」($r = -0.305$)で、5%水準で負の相関が認められた (Table 1)。

女性教師では、「スーツ」と相関が認められたのは、「Qes1. やさしい」($r = 0.394$)、「Qes2. 真面目な」($r = 0.380$)で、1%水準で相関があることがわかった。「ジャージ」と相関が認められたのは、「Qes2. 真面目な」($r = 0.305$)で、5%水準で相関が認められた。「白衣」と相関が認められたのは、「Qes3. 熱意がある」($r = -0.334$)で、5%水準で負の相関が認められた。「スカート」と相関が認められたのは、「Qes6. 話しやすさ」($r = -0.315$)で、5%水準で負の相関が認められた (Table 1)。

以上の結果から、男性教師に対しては、ジャージ姿にプラスのイメージがあり、女性教師に対しては、スーツ姿とジャージ姿にプラスのイメージを持っていることがわかった。

そこで、男性教師のジャージ姿、女性教師のスーツ姿の評価と教師パーソナリティ評価の間に成り立つ関係式を見つけるために、重回帰分析を行った結果、Y「男性教師のジャージ

Table 1 Correlation coefficient between Clothes with Question.

	Male Teacher			Female Teacher			
	Jersey	White	Working	Suit	Jersey	White	Skirt
1. gentle	0.345*			0.394**			
2. diligent				0.380**	0.305*		
3. enthusiastic						- 0.334*	
5. easy to understand							
6. easy to talk	0.336*						- 0.315*
7. talk together		- 0.320*					
8. friendly			- 0.305*				
9. like	0.313*						

* p < 0.05, ** p < 0.01

ジ姿」 = $0.268 \times$ 「やさしさ」 + $0.221 \times$ 「話しやすさ」 - $0.332 \times$ 「授業がよくわかる」 + 2.022 の回帰式が求められた。重回帰式の当てはまりをみるために、予測値と残差を求め、実測値と予測値の相関を求めたところ、相関係数 $r = 0.507$ で、1%水準で有意であった。

また、Y「女性教師のスーツ姿」 = $0.221 \times$ 「やさしさ」 + $0.317 \times$ 「真面目な」 - $0.311 \times$ 「話しやすさ」 + 1.963 の回帰式が求められた。実測値と予測値の相関は相関係数 $r = 0.589$ で、1%水準で有意であった。

以上の結果から、男性教師のジャージ姿を好ましいと評価する者ほど、先生の授業はわかりにくい、やさしくて、話しやすい先生であると思っていた。そして、女性教師のスーツ姿を好ましいと評価した者ほど、先生は話しやすくないが、真面目でやさしい先生だと思っていることがわかった。きちんとした女性教師のスーツは、話しかけにくいといったマイナスのイメージを与えていたが、男性教師のジャージ姿は、話しかけやすいというプラスイメージを与えていた。母親がスーツを着ている姿を見たことがない生徒も多いので、スーツ姿は距離感を感じると推察された。

校長・教頭や保護者と会う必要のある教務主任・学年主任などは、スーツ姿が良いが、教師は生徒が将来の進路や悩みを相談しやすいように、話しかけやすい雰囲気を持っている「ジャージ」や新しい感覚を持った若い教師に好まれそうな「ビジネスカジュアル」的な衣服が良いと推察された。今後、調査対象者を高校生に広げることで、さらに明らかな結果が得られるものと考え。

4. 結 言

女子大学生を対象に、高校教師の認知に対する服装の影響について検討した。結果は以下の通りである。

1) 高校の男性教師は熱意があり、おもしろいと評価されており、女性教師は真面目で、話しやすく、親しみやすいと評価されていることがわかった。

2) 女子大学生が好ましいと評価した服装は、男性と女性教師ともにスーツ姿であった。また、女性教師のスカート姿とパンツ姿も好ましいと評価された。一番好ましくないと評価されたのは作業着姿で、男性よりも女性教師に好ましくない服装であると評価していた。そして、白衣とジャージはどちらでもないとして評価されていた。

3) 服装の評価と教師に対するパーソナリティ評価の関係を明らかにするために、重回帰分析を行ったところ、Y「男性教師のジャージ姿」 = $0.268 \times$ 「やさしさ」 + $0.221 \times$ 「話しやすさ」 - $0.332 \times$ 「授業がよくわかる」 + 2.022 の回帰式、Y「女性教師のスーツ姿」 = $0.221 \times$ 「やさしさ」 + $0.317 \times$ 「真面目な」 - $0.311 \times$ 「話しやすさ」 + 1.963 の回帰式が求められた。

以上の結果から、男性教師のジャージ姿を好ましいと評価する者ほど、先生の授業はわかりにくい、やさしくて、話しやすい先生であると思っていた。そして、女性教師のスーツ姿を好ましいと評価した者ほど、先生は話しやすくないが、真面目でやさしい先生だと思っていることがわかった。

謝 辞

本研究にあたり、アンケートにご協力いただきました大学生の皆様に深謝します。

References

- [1] Horn MJ, Gurel LM (1983) "Fashion to Kosei", pp147-187, Shiyowado
- [2] Tamura K (2003) Journal of Home Economics of Japan, **54**, 769-776
- [3] Ed. The Textile Machinery Society of Japan (1988) "Hifukusinrigaku", pp89-105, Textile Machinery Society of Japan
- [4] Naitou A, Hashimoto R, Kato Y (2001) Jpn Res Assn Text End-Uses, **42**, 68-76